

南の風

ふえーぬ風

発行 〒901-1115

沖縄県南部農業改良普及センター

TEL:(098) 889-3515

FAX:(098) 835-6010

祝!! 内閣総理大臣賞受賞

農林水産祭「むらづくり部門」・糸満市喜屋武集落

平成21年11月23日に農林水産祭（農林水産省、日本農林漁業振興会主催）が東京の明治神宮会館で開催され、糸満市喜屋武集落が「むらづくり部門」で全国2位となる内閣総理大臣賞の授与を受けました。

農林水産祭むらづくり部門は、農林水産祭の表彰行事7部門の1つとして実施されるもので、平成21年度は各都道府県から優良事例として31事例が推薦されました。地方農政局のむらづくり審査会を経て、中央審査委員会の審査で特に優れた取り組み3事例に対して、天皇杯、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興協会会長賞が授与されました。



喜屋武集落のみなさん



内閣官房副長官より内閣総理大臣賞の授与



県農林水産部長に受賞報告

○喜屋武集落のむらづくり

喜屋武集落は沖縄戦の激戦地でもあり、郷土復興に対し集落住民が一丸となって、「人が土を守れば土は人を守る」を合い言葉に共同による土づくりを行うとともに、公民館の整備や生活・農業用水の確保、土地改良の推進、ハーリー、エイサーなどに代表される伝統文化の継承など、沖縄県内でもいち早くむらづくりに取り組んだ。

「地域ぐるみの自治会活動と農業振興が両輪一体となったコミュニティ」が形成されており、近年では「美らキャロット」産地として、ニンジン生産を中心とした産業振興に地域一体で取り組んだことが評価された。

今後、喜屋武集落の活動は農林水産業と農山漁村の振興と発展における優良事例として全国的模範となるとともに、地域では受賞をステップに更なる地域振興と発展が期待される。次ページに、喜屋武集落における産地育成の概要紹介。

(普及企画班：崎間)

中央審査員による現地調査（9月7日）



公民館での集落概要説明



審査委員に展示品の説明



ゴーヤー施設栽培について農家からの説明

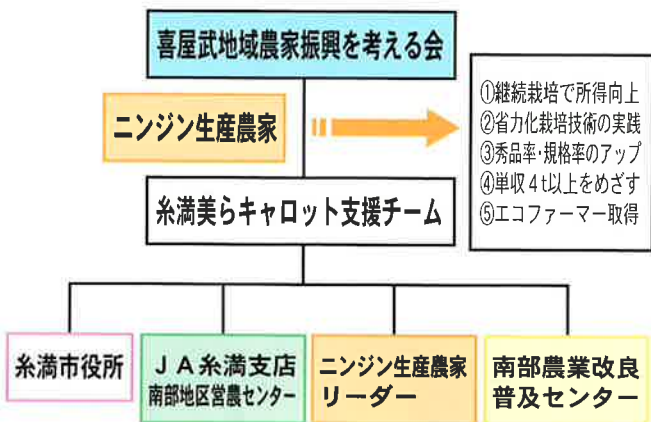
『美らキャロット』生産振興による産地育成

1. 活動の要旨

糸満市喜屋武集落では、島尻マージ土壌を活かしたニンジン生産が盛んで、消費者からは甘くて美味しいと人気が高まっている。しかし、産地の現状は担い手の高齢化、低単収、低所得で、後継者の育成、栽培技術の向上による反収・所得の向上が課題となっていました。

平成17～18年度にかけて農業労働環境整備事業の導入をきっかけに、普及センター、市役所、農協、農家リーダーで構成する「美らキャロット支援チーム」を立ち上げ、それぞれの役割を明確化し、連携した支援活動を行い、さらに平成19年度より、地域農業振興総合指導事業を実施し、①省力化栽培技術の普及と単収・品質の向上、②所得安定のための営農類型の確立、③販売強化による産地の活性化等の課題について、関係機関と連携して継続した産地育成を進めています。

2. 関係機関との支援体制



第1回事業推進会議の開催（喜屋武公民館）

3. 事業の取組内容

事業導入により、地域リーダーを中心にニンジン産地の課題について先進地視察研修や講演会、実証展示圃の設置、栽培講習会、集落座談会等がもたれ、省力化栽培の普及定着、栽培技術の向上、都内大手スーパーとの値決め販売の成立、「美らキャロット」商標登録によるブランド化等がすすんでいます。



展示ほ現地検討会



産地活動について視察
(埼玉県新座市)



ニンジン選別機の視察

4. 今後の取組について

平成21年度で糸満市喜屋武集落での取組は終了し、平成22年度より新たな地域での実施となります。地域農業振興総合指導事業では拠点産地の活性化や集落リーダーの育成、栽培技術の改善など産地の課題に対して関係機関の支援体制を整備し、ゆたかな地域社会づくりを推進していきます。

大切なキクに近づく悪

早期防除
による

撃退編

真夏の炎天下の中で大切に育て、年末に出荷した小ギクはどうでしたでしょうか？夏場は暖かいため立枯れや害虫の発生も冬場より多く、手を焼いたところもあるかと思います。

今回は皆さんの大切な彼岸や4月出しのキクを狙っている病害虫情報をお届けします。

害虫 害虫は夏場だけでなく、冬場でも暖かいと活動を始めます。大発生すると、抑えるのは困難ですので、初期防除が行えるよう虫眼鏡を持って確認することが、防除の近道です。



アザミウマ類

年中現れますが、春になりぽかぽか暖かくなり出すと、より多く出現します。新芽だけでなく、中位葉にもいますので、葉の表裏、株の下から上まで農薬散布してください。



タバコガ

10~12月、2~4月に発生が多く、卵から孵化した幼虫は新芽に隠れ芯を食害し、脱皮をしながら上位部の葉を食害します。食

害の広がりも早く、大切な葉を食べつくされる可能性があります。発生初期は新芽にも隠れますので、新芽にも充分農薬散布が必要です。



ナミハダニ

乾燥すると大発生しやすくなります。葉裏に多く、色が白いため見えにくくもあり、防除のタイミングを逃しがちです。葉に

白い微小斑点を生じたり、多発すると葉色が白くなります。下葉にも新芽にもいますので、アザミウマ同様に株全体の防除が重要になります。



病気は広がる前に被害株をほ場外へ取り除くことが大切です。



黒斑・褐斑病

主に空気感染するといわれ、下葉の方から徐々に進行します。下葉の整理を行い、感染源となる葉を落とし農薬で防除しましょう。



菌核病

寒く湿度が高い時期に発生する病気です。地際の茎から発生が多く、茎が褐変し白いカビを生じます。進行するとねずみの糞状の黒い塊(菌核)が

作られるのが特徴です。放置すると株全体に症状がおよび、枯れます。被害株は場外へ除去しましょう。



白さび病

発生適温15~23℃で多湿を好みます。よって沖縄では冬から春に発生が多く見られます。初期症状は1mm程度

の大きさの乳白色の斑点を生じ、次第に大きくなりながら葉の裏にクリーム色の斑点を生じます。対策は多湿にならないよう排水や風通しを良くしましょう。また、被害株をほ場外へ除去して下さい。

病気を引き起こす菌類や害虫は、同じ農薬を使い続けると効果が弱くなることがあります。数種類の農薬を組み合わせて使うようにしましょう。

(写真協力；病害虫防除センター

担当者；園芸技術普及班 城間)

冬春期の野菜 これからの栽培管理と病害虫防除

●ゴーヤー

ゴーヤーの生育温度は17～28℃と範囲は広いですが、気温が低すぎると着果不良になり曲果や果実肥大も緩慢となりますので、ハウスの保温に努める必要があります。また、着果過多は樹勢の低下を招きますので、樹勢の強弱により着果量を適正に保つ必要があります。写真のように樹勢が強いときは1週間に3回程度、弱いときは1回程度の交配が目安となります。

病害虫については、ハウス内が乾燥気味の日が続くと、うどんこ病・ホコリダニ類の発生条件となりますので、早期発見、早期防除に努めてください。うどんこ病は直射日光が当たるところより、日陰になる部分に発生が多いので、下葉や日陰になる部分を中心に観察して早期発見・早期防除に努めましょう。チッソ過多は発病を促進しますので、チッソ肥料の適正化を図ることが大切です。

チャノホコリダニは新芽や新葉に好んで発生し、葉にウイルス病に似た奇形症状を生じることがありますので早期防除を行って下さい。

施設内の透光や通風を良くすることも病害の発生を防ぐこととなりますので、黄化葉や混み合った葉の摘葉及びつるの間引きを行いましょう。



樹勢強い(側枝出だし)



樹勢弱い

●サインゲン

冬場に多発する病害の中で、市場からのクレームが最も多いのが「菌核病」です。収穫時には問題のない莢が、本土市場で箱を開けると、白いカビが広がっていることがあります。これらは、もちろん商品にすることができません。

「菌核病」の特徴として、低温多湿条件下で発生しやすくなります。罹病すると、葉・茎・莢に水浸状の病斑や白色のカビが現れ、後にネズミの糞状の菌



菌核病の症状

核を形成します。

また、菌核は土壌中で5～6年以上も存在するため、発生した箇所から早めに切り取り除去することが必要です。対策としては、「菌核病」が発生

してからではなく、予防的に薬剤処理することが重要になります。

●トマト

トマトは、1株当たりの着果数が多いと果実は小さくなるので、1花房当たり着果数は、3～4果になるよう早めに摘果しましょう。摘枝、誘引も適時行います。交配はホルモン処理の場合は濃度、回数に気をつけください。マルハナバチの活動温度は、15～28℃であり、トマトの開花・花粉発芽温度も15℃以上であるので、ハウス管理と晴天の午前中灌水等により温度や湿度の調整を図り、着果促進、病害虫の発生を防ぎましょう。

灌水間隔が長く、土壌の乾湿の変化が激しい場合、裂果の発生や窓あき果、チャック果、乾燥によるカルシウム吸収阻害による尻腐れ果などの生理障害が出やすいので、こまめな灌水管理が必要です。

病害虫防除は、よく観察し、病害虫の密度を上げないように初期防除に努め、害虫の侵入防止にハウスの出入り口はネット被覆を行い、下葉や脇芽等の残渣は、ほ場外に持ち出し生育環境を清潔にしましょう。また、ウイルス病、土壌病害発生株は、早めに抜き取り処分しましょう。

農薬散布するときは、葉の裏にも十分薬剤が付着するように散布を行い、同系統の薬剤は、連続散布しないようにしましょう。

マルハナバチの管理は殺虫剤散布の時に、薬剤の影響日数を考慮して巣箱の移動を行いましょう。



清潔な生育環境 (トマト)



子牛の飼養管理について

- I. 飼養管理と衛生管理を適切にして、遺伝能力を十分に発揮させよう。
- II. 哺乳期の3ヶ月齢までは濃厚飼料中心で育て、育成前期（4～6ヶ月齢）は濃厚飼料多め、育成後期（7ヶ月齢以降）は粗飼料多め（濃厚飼料は4.5kg/日まで、粗飼料は食べ放題）の飼養管理をしよう。

1. 分娩直後 子牛にできるだけ早く初乳を与える！

子牛はヒトのように母親から胎盤を通じて免疫を獲得せず、母乳（初乳）を通じて小腸から吸収して免疫を獲得します。初乳は24時間後には免疫成分が約半分に減少し、また子牛は48時間以内にしか初乳を体内で吸収しません。免疫を獲得しないと病気にかかりやすくなります。分娩後出来るだけ早く（6時間以内）初乳を与えましょう！

また、発育促進のために鉄剤（貧血防止）、ビタミンおよびミネラル（栄養の吸収や免疫力を高める）の投与または注射をしましょう。おへその消毒も忘れずに！

2. 哺乳期（0～2ヶ月齢）

哺乳後期（1.5ヶ月齢以降）には、子牛の成長に伴い母乳だけでは必要な栄養分の8割程度しか満たしません。人工乳（固形の飼料）により栄養の充足と物理的な刺激により胃の発達を促します。

人工乳の給与方法は、①1～2週齢時に一握り程度から慣らしはじめ、1ヶ月齢で200g、2ヶ月齢で900gを目安とします。この時期には乾草は遊び食いする分の少量（多くても500g/日）で十分ですが、逆に草を与えすぎると胃や腸で分解能力が未発達のため栄養不足や下痢の原因になります。

3. 3～4ヶ月齢 育成用濃厚飼料へスムーズな切り替え！

人工乳（固形の飼料）の給与量は、3ヶ月に1.5～2kg食べさせ、少しずつ育成用の濃厚飼料に切り替えながら良質の粗飼料（乾草）を1.5～2kg与えます。離乳は4ヶ月齢を目安とします。

4. 5～6ヶ月齢 タンパク質とエネルギーのバランスが重要

きれいな水がないと食い込み量が増えません。第1胃も発達してきて粗飼料の吸収が可能になってくる時期ですので粗飼料は飽食させます。粗飼料は良質（栄養価と消化性の良いもの）なものを与えます。適量施肥と適期刈り取りをした自給粗飼料は輸入乾草と同程度の栄養価があります。特にトランスパーラは葉茎が細く消化性および栄養価良い暖地型牧草です。

5. 7～9ヶ月齢 濃厚飼料の給与量は基準量とし、粗飼料は飽食！

余分な脂肪をつけないために、出荷前でも濃厚飼料の給与量は約4kg/日以内にします。尾枕（おまくら：尾の付け根の左右についた脂肪）は内臓脂肪の付着の目安になるといわれ、肥育期の発育にも影響を与えるようです。9ヶ月齢の出荷前の時点で、粗飼料を4kg以上食い込んでいれば良好な発育です。

（地域特産振興班 本村）

ステージ		ほ乳期				離乳期		育成期					
月齢		0				1		2		3			
日齢		0～	20～	45	60	90	120	150	180	210	240	270	
体重(kg)	去勢	34	54	79	93	123	153	182	206	247	271	301	
	雌	29	46	69	82	108	134	160	186	213	229	266	
配合飼料		人工乳				育成飼料							
粗飼料		人工乳				良質乾草(チモシー等)							
給与量(kg/日)	去勢	人工乳	0.1	0.2	0.5	1.0	1.5						
		育成飼料						2.6	2.8	3.2	3.5	3.8	4.0
		良質乾草			0.2	0.5	1.0	2.5	3.0	3.4	4.0	4.2	4.4
	雌	人工乳	0.1	0.2	0.5	1.0	1.5						
		育成飼料						2.2	2.4	2.6	2.8	3.0	3.2
		良質乾草			0.2	0.3	1.0	2.2	2.7	3.1	3.5	3.8	4.2

安全・安心な農産物の生産を目指す！

エコファーマー認証制度

平成21年度南部地区エコファーマーの12月現在の認定は、16件であり、これまでに延べ318件が認定されました。

エコファーマーに認定されるには、①堆肥等による土づくりをしっかりと行い、②栽培では慣行基準の化学合成農薬を3割減、③化学肥料の窒素を3割減の3つの技術を一体的に行う導入計画を作成し、役場・普及センター経由して県に申請、審査を受けます。

平成20年度にJA具志頭のピーマン専門部会は、全員66人がエコファーマーの認定を受け、その活動が評価されて環境保全型農業コンクールで農林水産大臣賞を受賞しました。

(地域特産振興班 東恩納)



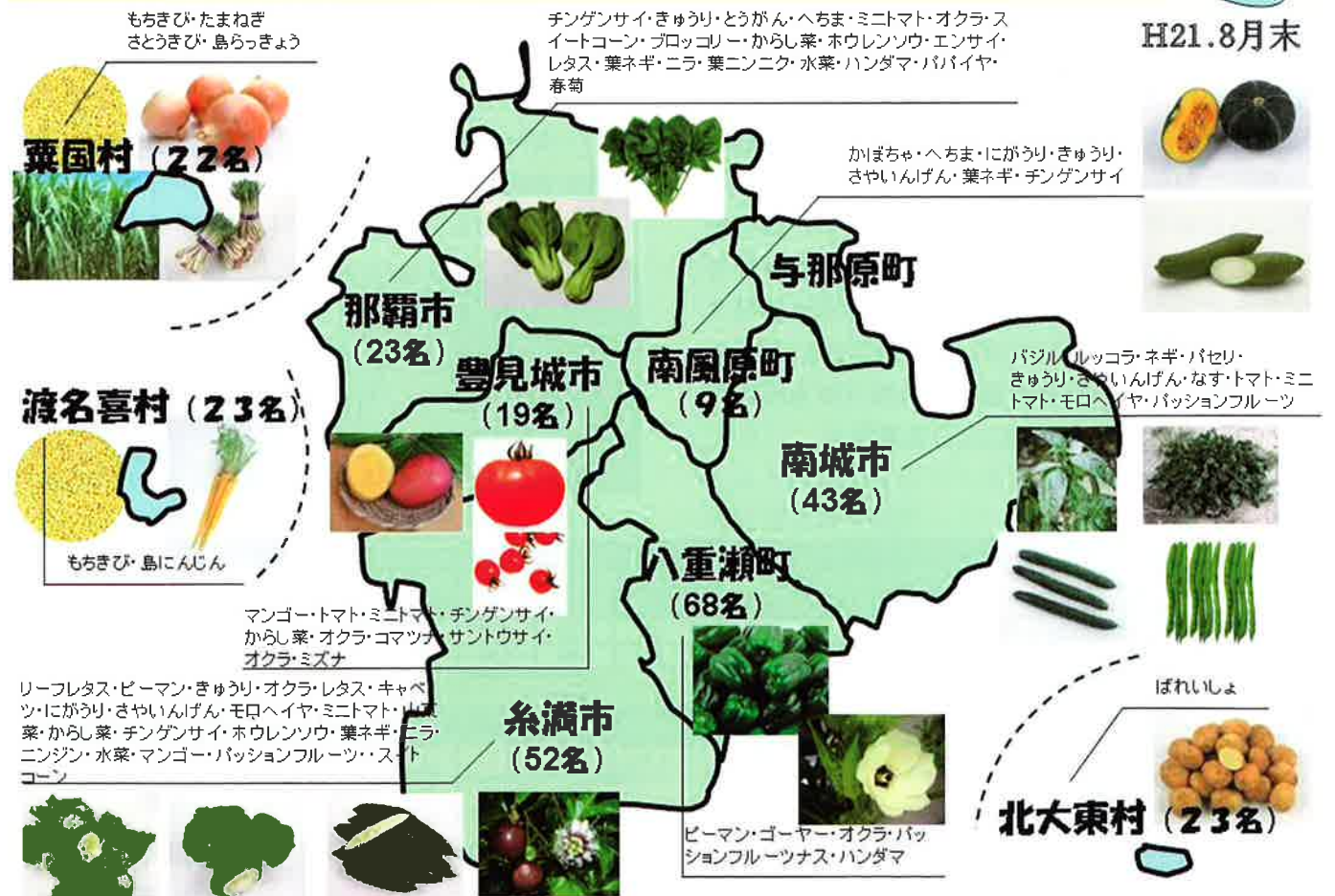
第14回九州・沖縄ブロック環境保全型コンクール
農林水産大臣賞受賞



南部地域のエコファーマー(実数)

282名!

H21.8月末



「芋」の産地を目指して ～JAおきなわ久米島支店 芋生産組合の取組み～

1. アリモドキゾウムシの根絶事業

沖縄県には、甘しょ（サツマイモ）の害虫であるイモゾウムシ、アリモドキゾウムシが分布しており、被害を受けたイモは味が悪く食用となりません。ゾウムシ類は沖縄では明治時代からすでにイモの害虫として知られており、方言でイリムサー、イリムシ、ヒームシ、ピームシなどと呼ばれます。これらの害虫は本土に生息していないため、甘しょの本土への持ち出しが現在規制されています。

このため、沖縄県ではイモゾウムシ、アリモドキゾウムシの根絶に向けて平成6年度（1994年度）から久米島で根絶実証事業を開始、平成13年度（2001年度）からは根絶事業を行っております。アリモドキゾウムシについては、殆ど個体の確認が出来ない状態まで防除が進んでおり、平成22年度を目標に国の根絶確認が出来る状況まで来ています。イモゾウムシについても、根絶に向けて防除作業が行われていますが、それに加えて、輪作・収穫残渣処理・ゾウムシフリー苗育成などの耕種的防除も行い、これによりゾウムシの密度を減らす事が出来るので、適期管理作業をすることでイリムサーのっていない甘しょを栽培出来つつあります。



写真1 根絶間近のアリモドキゾウムシ

2. JAおきなわ久米島支店 芋生産組合設立

そのような中、JAおきなわ久米島支店の農家の中でサトウキビ、葉たばこの輪作体系として甘しょを取り入れていきたいとの要望があり、平成21年12月に生産者9名の構成で芋生産組合を設立しました。定期的に栽培講習会や市場との意見交換会を行い、栽培技術の向上及び販売先の開拓を行ってきました。今期は青果15.7t、加工12.7tを出荷し、市場からの評判も上々です。今年度制定された11月16日の『いもの日』では、Aコープにて、ポスターを展示して久米島の芋のPR活動を行いました。まだ、結成して間もない部会ですが、アリモドキゾウムシの根絶間近という好機を生かして、来年度も面積を増やしていく計画です。これからも、イリムサーのない上等な「芋」を作るために、関係機関と連携をとりながら、適期管理を徹底し、「芋」の産地を目指していきます。

（久米島駐在 加藤）



写真2 芋生産組合



写真3 いもの日のキャンペーン



がんばれ! NEWフーマー

—消費者の反応(喜怒哀楽)が、私の力—

～新規就農者
紹介コーナー～
糸満市

取材に伺った際、マンゴーの誘引作業に汗を流していたのは、今回のNEWフーマーのおおのみつる大野満さん(48歳)。

拠点産地を数多く持つ糸満市で、マンゴー(800坪)とサトウキビ(1,500坪)を営んでいる。

農業後継者として就農した大野さんは、今年度が、就農1年目。今年度は、「勉強の年」と位置づけている。「農業は、ゆっくり・のんびり出来ると思っていた。でも、マンゴーの収穫期は、休み無し。しかし、手間暇かければ、ちゃんと応えてくれる。日々の変



化を楽しんでいますよ。」優しい眼差しで今の心境をそう答えた。

J A共選と直売所に販路を持ち、特に直売所では、搬入の時に消費者の近くで反応を確認する等、その好奇心の高さが感じられる。自らの『安全・安心』を確立させることを目標に、来年度は、知識を活かして「実践する年」と話す。

「今後、農業を目指す人たちに少しでも希望が与えられる取り組みをしていきたいですね!」と、最後に意欲的に語られた。

(普及企画班 橋)



平成21年度

沖縄県農業士等認定について

名誉指導農業士：神里護・新垣光勇 指導農業士：新里聡
女性農業士：當銘百子



平成21年度の沖縄県農業士等認定式が10月20日におきでんふれあいホールにおいて行われた。

南部地区からは名誉指導農業士に神里護氏、新垣光勇氏の2名、指導農業士に新里聡氏、女性農業士に當銘百子氏が認定されました。4名の経営内容は右のとおりです。今後とも地域農業のリーダーとして活躍が期待されます。

名誉指導農業士：神里護氏(八重瀬町)



キク等栽培し、沖縄県4Hクラブ連絡協議会会長、農業委員会会長を歴任し、現在も研修等を受け入れ、後継者育成に貢献している。

名誉指導農業士：新垣光勇氏(南城市)

施設野菜栽培で25年の経験を持ち農協理事、JAおきなわ大里支店野菜生産部会長を歴任し、地域農業の発展に貢献している。



指導農業士：新里聡氏(八重瀬町)



ピーマン等栽培してJAおきなわ具志頭支店野菜生産部会会長を務め、エコフーマー認定に尽力するなど地域のリーダー的存在である。

女性農業士：當銘百子氏(豊見城市)

マンゴー、トマト、野菜等栽培し、平成20年度からは市農業委員を務めるなど地域に広く貢献している。

